

## タフで優しく共感力を備えて!

### ●浦高創立百二十周年式典に参加して!

10月3日(土)午前10時から、さいたま市文化センター大ホールにて「埼玉県立浦和高等学校創立百二十周年記念式典」が開催され、私も同窓会常任理事の一人として参加させていただきました。



〔写真①〕鈴木教頭による開式のことば、一同起立

第1部は式典で、次のような流れでした。

1. 開式のことば
2. 国歌斉唱
3. 校長式辞〔杉山剛士 第29代校長〕
4. 埼玉県教育委員会のことば  
〔櫻井郁夫 埼玉県教育委員会副教育長〕
5. 来賓祝辞  
〔前島富夫 浦高第27代校長〕
6. 来賓紹介、祝電披露
7. 同窓会奨学財団設立の披露  
〔川野幸夫 浦高同窓会会長、奨学財団理事長〕
8. 生徒代表のことば  
〔設楽君 ミシガン大学サマーセミナー参加者〕
9. 校歌斉唱
10. 閉式のことば

\* \*

式典では、杉山校長の式辞〔写真②〕と生徒代表の設楽君のことばが印象的でした。

杉山校長の式辞の一部をご紹介します。「本校は明治28年、浦和鹿島台の地に、埼玉県で初めての尋常中学校として産声を上げ、その後、幾多の困難の中にあっても、多くの先人の尽力により発展し、平成7年には創立百周年を迎えました。そして本年度、さらに百二十周年という節目の年を迎えることができました。

一口に百二十年と申しましても、この間の道のりは、決して平坦ではなかったと存じます。とりわけ百周年以降の二十年間は、全国的に見て、ともすると様々な要因から伝統校あるいは公立高校の低迷が



見られた中、浦和高校が逆にその輝きを増していったのは何故なのか。私は校長着任以来、そのことを考えておりましたが、それは浦高が教育の王道を歩みながらも進化し続けてきたことにあつたのではないかと考えております。

教育の王道とは、知・徳・体のバランスのとれた教育であります。(中略)

さて、この節目に際し、未来を担う浦高生に対して、改めて伝えたいことは、「タフで優しい人間であれ」ということでもあります。

グローバル化が進む世界は、激しい競争社会でもあります。私たちは、好むと好まざるとに関わらず、この競争社会に勝ち抜いていくことが求められています。そのためには、知的にも精神的にも体力的にも「タフ」でなければならない。失敗しても挫折しても、それを乗り越えていく「タフさ」が求められています。また、全地球的規模で進展する様々な課題を解決するためには、「新しい価値の創造」に向け、考えて考えて考え抜く知的「タフさ」も求められています。

一方で、競争社会の行きつく先が格差の拡大であってはならない。他者に対する「優しさ」、とりわけ弱者に対する「共感力」が必要であります。また、若田光一さんがスペースシャトルの船長になったとき「和」の精神を掲げたように、チームで取り組む力が大切になっています。そうしたことを通し、新たな時代における共生社会の姿を構想していくことが求められています。

浦高生。君たちは未来です。君たちがどんな未来になるか、なろうと志すかが問われています。君たちが世界の未来を引っ張っていくためには、この「タフさ」と「優しさ」、「共感力」を兼ね備えた人間になっていくことが極めて大切です。そして、私は浦高生をはじめ日本の高校生にこそ、世界の課題を解決する大きなポテンシャルがあると期待しています。

(中略)。「タフ」で「優しい」人間であれ。そしていつか、世界のどこかで、世界の繁栄と平和に貢献する人間になってほしい。私は浦高生の未来に大いに期待しています。【浦高HP「校長講話」引用】

\* \*

杉山校長は、「タフさ・優しさ・共感力を兼ね備えた人間であれ」「世界のどこかで世界の繁栄と平和に貢献する人間であれ」という言葉

を折り込みながら、百二十周年を祝う来賓達の心に残る式辞を述べられました。そうした浦高教育を支援する同窓会では、川野会長〔写真③〕から百二十周年記念事業である「同窓会奨学財団」について主旨と経緯が披露されました。



そして、奨学財団の支援を受けてミシガン大学のサマーセミナーに参加した3年生の**設楽君**〔写真④〕からは、英語も交えながら体験で得られたものと財団に対する感謝の気持ちが伝えられました。



英語の苦手な私です。彼の発表を全部聞き取ることはできませんでしたが、世界各地から参加した学生達と比べて自分の語学力の低さを反省し、これから世界に挑戦して行こうという決意を堂々と語ってくれました。

今年、財団からはミシガン大学サマーセミナーに3年生6名、ウィットギフト校(英国)サマーセミナーに2年生8名の計14名に奨学金を送っています。

先人が築いて来られた百二十年の伝統と歴史を引き継ぎながらも、母校と同窓会等が一体となって広き宇内に雄飛する人材育成を、時代の要請に応えながら進めるといふ強い意志の感じられる式典でした。

＊ ＊

第2部は11時5分からの**アトラクション**でした。

最初に登場したのは、37回生でベルリン在住のオーボエ奏者・渡辺克也さんでした〔写真⑤〕。サン＝サーンスの「オーボエソナタ」を演奏され、演奏を止めずに鼻から呼吸する「循環呼吸法」を披露して「息の長い繁栄を！」と祝辞を述べられました。



続いて、**グリークラブ**〔写真⑥〕が「いざたて戦人よ」「Ride The Chariot(ライド・ザ・チャリオット)」など4曲を披露し、37人の男性合唱は圧巻でした。



さらに幕間では**応援団**〔写真⑦〕が登場し、コント(?)「ピタゴラスイッチ」などを演じ会場に笑いを振りまいてくれました。私たちの時代には硬派の塊だった応援団、時代の違いを認識させられましたが、若さ一杯の一生懸命さがとても嬉しく感じられました。



〔写真⑧⑨〕: 応援団の応援歌では会場が一体となって]

続いて、**吹奏楽部**の演奏〔写真⑩〕で、ジェイムズ・スウェアリンゲン作曲の「管楽器と打楽器のためのセレブレーション」などを楽しませてくれました。



アトラクションの最後は、**グリークラブ**、**吹奏楽部**、**室内楽部**、**応援団**によるエドワード・エルガー「威風堂々」(行進曲)で締めくくりました。



〔写真⑩〕: 威風堂々の演奏・浦高HPより]

アトラクションも浦高生のイキイキとした姿を感じられる素晴らしいものでした。**感謝と拍手!**

＊ ＊

12時30分からは、会場を4階多目的ホールに移して「**祝賀会**」となりました。来賓の高等学校関係者、学校評議員、旧職員、PTA、後援会、同窓会、現職員など180名弱が一堂に集まり、百二十年を祝いました〔写真⑫〕。記念品は、百周年記念誌か



らの20年間を綴った記念誌「銀杏樹」、「尚文昌武」のタオル、「雄飛せん」と書かれたボールペンでした。